

ちひろカレンダー普及推進ニュース

発行：原水爆禁止日本協議会 電話：03-5842-6031

Eメール：antiatom55@hotmail.com

2015年
12月16日

噴火被害の口永良部島の人たちに 愛と希望のちひろカレンダー贈呈



教職員住宅に仮住まいの大工さんへ（写真左）、学校へ訪問（写真中）、仮設住宅の避難者へ（写真右）

12月14日、火山の噴火に伴う全島避難からはや半年の口永良部の島民のみなさんに「ちひろカレンダー」を届けようと鹿児島県労連議長の山崎秀文氏と県原水協の池田のおじさん二人組で、島民が避難生活を送る屋久島に行ってきました。翌15日には、屋久島町長を訪問し、今回の取り組みの報告をさせていただきました、大変よろこんでもらいました。

私たちは、「えらぶ仮設住宅自治会会長」の山口英昌さんの案内と屋久島在住の前原昌和さん（「原水協通信」読者）の運転で屋久島の街を駆け回って訪問活動を行いました。仕事や帰島準備で不在が多かったのですが、お会いできた方々からは、「わざわざありがとうございます」「かわいい、きれいですね」「大事にします」などカレンダー贈呈への感謝の言葉をいただくことができました。

訪問活動の最後に小学校を訪問し、学校関係者12世帯分と各教室分のカレンダーをお渡しし、懇談をさせてもらいました。学校も1月8日からは再開する予定で準備がすすめられています。半年間人がいなかった島では、各家庭や学校などの施設の建物の傷みも進んでいます。また、噴火の際の火砕流跡もすごいです。その後の大雨や台風による土石流などの被害からの復興も今からです。また、帰るに帰れない方もいます。島のみなさんがすこしでも元気で過ごせるように、明るい気持ちになれるようにと今回、ちひろカレンダーを届けることができて本当によかったと思いました。

25日には、噴火口から2.5キロ以内などの制限のある10世帯を除いての帰島が始まります。私たちが訪れた日も多くの島民の方や学校の先生方も帰島の準備に取り掛かっておられました。避難された皆さんは、屋久島に設置された仮設住宅、家族の多い方などは、公的住宅や民家を借りています。また、鹿児島県本土や九州各地に散らばった方やもう帰れない方もいると聞きました。屋久島町では、署名があと少しで町民の一割に届きます。今後も様々な平和の取り組みをしましょうと現地のみなさんとの交流も進みました。（池田勝久）